

## (2) B小学校の取組

～誰もが学びやすい、働きやすい支援体制づくりを目指して～

### 1 ここがポイント!

- 合意形成を丁寧に進めた個別の教育支援計画等
- 普段からの連携、工夫した情報共有・提供、資料活用術
- 担当者の大切にしている視点



### 2 年間スケジュール(一部です)

月	特別支援委員会
4月	○校内特別支援打ち合わせ ○第1回支援委員会
5月	○第2回支援委員会 ○個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成
6月	○SSWとの情報交換 ○必要に応じて支援委員会(ケース会) ○保護者との教育相談(個別の計画等) ○第3回支援委員会
7月	○保護者との個別懇談、支援の評価
9月	○必要に応じて支援委員会(ケース会議)
10月	○第4回支援委員会
11月	○職員打ち合わせ
12月	○保護者との個別懇談、支援の評価 ○SSWとの情報交換
2月	○第5回支援委員会 ○個別の教育支援計画・個別の指導計画の評価と見直し
3月	○今年度の反省と次年度の計画 ○SSWとの情報交換

### 3 特に工夫していた点

#### 【年間計画の工夫】

**ポイント①** 役割分担を明確にすることによって、動きが分かりやすいようにしています。



B小学校の支援委員会の年間計画は、「**誰が担任になっても、誰が特別支援教育コーディネーターになっても取り組める計画**」として、役割を明確にしています。ちょっとした工夫で、それぞれ役割が分かり、支援を「スタートすることができます。また、初めて特別支援教育コーディネーターになっても心強い計画となり、担当が変わってもスムーズな移行ができ、支援体制の継続を図ることができます。」

	担任	コーディネーター
式前)	○児童についての引継ぎ内容の確認	○支援体制の確認(校内・関係機関)
「合せ」	○児童の実態や対応等の共通理解	・関係機関リストの作成
て	○「気になる子」のチェック(チェックリストの活用)	○児童の実態把握 ○就学前機関・通級先との連携

#### 【本人及び保護者との合意形成を丁寧に進め、活用できる個別の教育支援計画等に】

**ポイント②** 本人、保護者が計画作成へ参画し、合意形成に至るまでを大切に教育相談を進めています。



5月に「個別の教育支援計画・個別の指導計画」の作成のために、「○興味関心等○今できるようになりたいこと、できるようになってほしいこと(保護者)○小学校卒業までにできるようになりたいこと、なってほしいこと(保護者)○将来なりたい職業、進学について等」のアンケートをとっていました。

6月には、そのアンケートをもとに、本人や保護者と話し合いながら、計画を修正していきます。そこで、**大切にしていたのは、「本人の話を聴く」という点です。**例え、本人が話している内容と現実のギャップがあった場合でも、その本人の思いを否定はしません。

本人の思いをよく聴き、受け止



## V 具体的な実践から学ぶために

### 1 小・中学校、高等学校の特別支援教育コーディネーターの具体的実践

めた上で、**本人自身が希望する学校生活、将来に向けて「今の自分が取り組むこと」**に気づくように教育相談をしていきました。

そうすることで、本人が自ら具体的に取組んでいく内容に気づき、それを学校（特 Co、担任等）が計画としてまとめることで、誰にとっても意識して取り組める計画となりました。

誰のための計画か、当事者中心に丁寧に進めている点が活用できるポイントです。

#### 【交流及び共同学習でのシートの活用】



**ポイント③** 通常の学級担任と特別支援学級担任が共通理解を図っています。

交流及び共同学習での特別支援学級児童への指導や支援について、交流先の通常の学級担任と特別支援学級担任の共通理解を図るために、コーディネートハンドブック第Ⅰ章☆「交流及び共同学習連携シート」を活用しています。共通理解のためには、一番は担任同士の話し合いが大切ですが、引継ぎや年度初めの忙しい時期には特に有効です。

#### 【普段から SSW との連携を大切に】



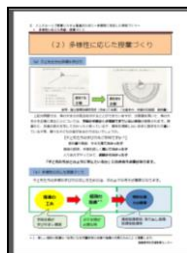
**ポイント④** いつ、関係者等とつながるかを工夫しています。

定期的に SSW との情報交換をしていました。**困った時だけ依頼するのではなく、普段から支援内容について共通理解等を図ることで、緊急時にはスムーズに対応できたそうです。**また、SSW は、家族へのケアという点でも心強い存在です。幼稚園や中学校、療育施設などの関係機関との連携も大切にしています。

#### 【支援委員会での資料作成の手間を解消】

支援委員会の全体会で、ユニバーサルデザインについて校内で研修しました。その時に、コーディネートハンドブックの第2章(2)「多様性に応じた授業づくり」などを活用しました。

資料作成の時短のため、校内研修のテーマに沿って、ハンドブックの資料を活用しています。



#### 【合理的配慮の取り組みについて】

**ポイント⑤** 学校として、合理的配慮について、そのプロセスを整理し始めました！



平成 30 年度の支援委員会の年間計画の 4 月に「合理的配慮についての保護者アンケート」を位置付けて取り組みを始めようとしています。本人や保護者からの合理的配慮の申し出ができる機会を設定し、働きかけることを計画しています。「支援だより」を発行し、子育てや特別支援教育について保護者への啓発も図っています。

学校として、合理的配慮について、どう取り組んでいくのか、これからの時代に対応した取り組みを工夫しています。

### 4 特別支援教育コーディネーターとして、大切にしている3つのこと

#### 1 「共感」～話を聞く！話を聴く！～

「やってほしいこと、知ってほしいこと」を伝えるだけでなく、まず、先生たちの話を聞く、聴くを大切にしています。会を設けなくても、廊下や職員室などでちょっとした時間で子どもの情報を共有し、担当だけでなく、学校全体でかかわるようにしています。

#### 2 「特別じゃない特別支援を目指す」

支援が必要な児童が特別にならない、支援が「当たり前」「さりげなく」できるようにチームとしての体制づくりを大切にしています。

#### 3 「人を変えるのは人」

校内の支援体制の充実のために、「まず自分が動く！」を大切にしています。そこから、少しずつ周りを巻き込みながら、支援の輪を広げていきます。「子どもの笑顔」のために！

実践例の提供者は、学校は変わりながらも6年ぐらい特別支援教育コーディネーターをしているそうです。「最初は、うまくいかなかったけれど、今は、**一人でやっている感がなくなりました。**」と話していました。

**話を聴いて、一緒に取り組む。**  
子どもも、保護者も、先生方も、大切に思っている取り組みですね。

